

1 おともだちのことば

今日は、北九州市教育委員会が平成二十七年に募集した人権作品の中から、北九州市小倉南区の小学一年生、木島実穂さんの『おともだちのことば』という詩を紹介します。本人の朗読でお聴きください。

『おともだちのことば』

北九州市立長尾小学校一年 きじま みほ

おともだち、

こぼつていぬことをそつだんしたら、

かたまっていたところが、

ふわっふわ、

うれしかったです。

のぼりぼうができませんとき、

おともだちみんながおうえんしてくれて、

かなしかったところが、

げんきになりました。

もつとがんばれるって、おもいました。

あひ、

「おはよう。」

こいっこい、

おともだちも、

「おはよう。」

とかえしてくれて、

こころがぼかしました。

おともだちのことばって、

たいようみたいですよ。

だって、わたしのこころを

あたたかくしてくれるから。

いかがでしたか。

実穂さんは、悩みが解決したことを「かたまっていたところが、ふわっふわ」と表現しました。また、友達と「おはよう。」とあいさつしたときの気持ちを「こころがぼかかしました。」と表すなど、実穂さんらしい発想が詩全体から伝わってきますね。

友達の言葉は、太陽に例えられるほど力強く暖かく、実穂さんにとつてなくてはならないものになっています。

友達に悩みを相談したら友達は耳を傾けてくれ、実穂さんは心が落ち着いてうれしくなります。

のぼり棒に苦戦して落ち込んでみると、たくさん友達が励ましてくれて、やる気を取り戻し、元気にやってみようという気持ちが高まってきます。

皆さんも困ったことに直面したとき、友達から一言、声を掛けられて、勇気が出たり、安心したりしたことはありませんか。

何気ない朝のあいさつも、実穂さんにとっては、大きな力になっていくようです。あいさつが友達から返ってくれば、一日の始まりから気持ちよく「今日も楽しい日になりそう。」「と感じられますよね。

実穂さんだけでなく誰にとつても、友達、そして友達の言葉はかけがえない大切なものです。温かい言葉を掛けてもらうだけでなく、自分からも心がぼかかする、言葉を掛けていきたいですね。では、また。